

## 不登校児童生徒への対応事例4（中学校第1学年男子）

### ～スクールソーシャルワーカーと連携した取組～

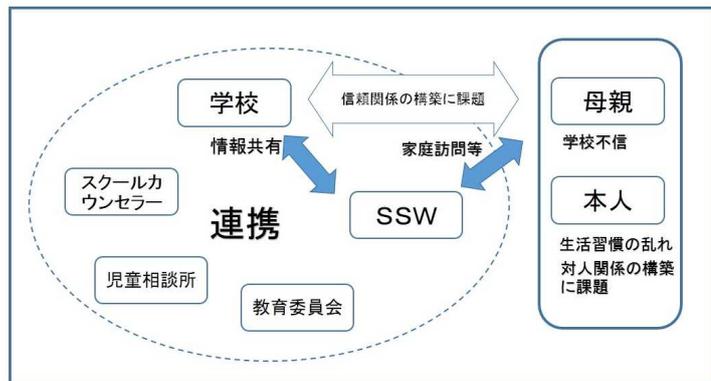
#### 問題の把握

- 当該生徒は、友達との関係をうまく築くことができないことについて悩むようになり、小学校第6学年の7月頃から不登校となった。
- その後、オンラインゲームに熱中するなどにより、昼夜が逆転した生活となり、ますます登校が困難になっていった。
- 当該生徒の母親は、登校を促すだけの学校の対応に不信感を抱いていたため、学校と母親との信頼関係の構築が課題であった。

#### 対応状況

##### ○ スクールソーシャルワーカーを中心とした対応

- ・当該生徒は、中学校入学後も不登校が続いたため、当該生徒の母親が教育委員会を訪れ、スクールソーシャルワーカー（以下「SSW」）に相談した。
- ・SSWは、不登校の解決に向け、母親と学校との信頼関係を築く必要があると判断し、三者で話し合う場を設けるなどにより、その関係改善に努めた。



##### ○ 学校と関係機関が連携した取組

- ・学校は、SSWに定期的に家庭訪問をするよう依頼し、SSWが学校の対応などについて母親に伝えるとともに、当該生徒及び母親の状況等について報告を受けた。
- ・学校は、SSW、スクールカウンセラー、児童相談所、当該教育委員会及び当該学校で構成するケース会議を定期的に開催し、当該生徒の現状と課題や、今後の対応などについて共通理解を図った。

##### ○ 不登校の解消

- ・当該生徒とSSWの信頼関係が生まれ、SSWが当該生徒に登校を促したところ、当該生徒は、SSWと一緒に登校できるようになった。
- ・SSWの対応により、母親と学校との間に信頼関係が築かれ、母親が学校の対応に理解を示すようになるとともに、母親が当該生徒を学校へ連れて行くようになった。

#### 不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・学校がSSWを効果的に活用し、学校と当該生徒及び母親の信頼関係の構築に努めたことにより、母親が学校の対応に理解を示し、当該生徒の登校につながった。
- ・学校と関係機関が情報を共有し、役割分担を明確にして対応することにより、当該生徒及び母親が抱える課題を解決することができた。